

## 2016年5月号特集「光を操作する, 光で操作する材料～有機材料を中心として」

有機材料は分子種だけではなく、アモルファス・結晶などの構造も多様であることから、新しい光機能性材料の開発が進められてきた。1982年のACS (American Chemical Society), 1985年のMRS (Materials Research Society) のシンポジウムでテーマとして取り上げられ、有名になったのは、有機非線形光学材料であるが、非線形光学効果以外にも様々な光機能性を付与する試みが行われている。

本号では、有機光材料を中心として、「光を操作する」材料と「光で操作して、新しい光機能を生み出す」材料に大別して特集を組んだ。

No.	タイトル	執筆者(候補)
1	特集にあたって	OplusE編集部
2	フェムト秒レーザーによる分子整列制御を利用した同位体選択イオン化	量子科学技術研究開発機構
3	中赤外フェムト秒パルスの増強場による超高速電子放出制御	東大生研
5	アゾ基の光異性化を利用する表面レリーフ格子形成とその応用	東大生研
6	有機-無機材料ハイブリッド化による光素子形成	宇都宮大CORE
7	EOポリマー	NICT
8	フォトリフラクティブ・ポリマーによる動的ホログラフィーとその応用	理研

	私の発言	清野慧
--	------	-----